

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101315		
法人名	社会福祉法人 千歳会		
事業所名	グループホーム青沼		
所在地	山梨県甲府市青沼2丁目23番1号		
自己評価作成日	平成21年12月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成22年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①開設7年目に入り目標としている「地域に根ざしたホームづくり」を目指して着実に推し進めています。その手段として、運営推進会議は地域包括・自治会役員・民生委員・近隣住民等の委員で構成され、その計らいで、老人クラブ・婦人会の有志が時折来訪し、太鼓の披露や歌を唄う等して交流している。②地域で開催される運動会・神社の祭典・文化祭等へ参加し、親睦の輪を広げている。③近所の八百屋さんにほぼ毎日買い物に出かけ、その場で代金を払い馴染みの関係と共に家庭生活の延長に繋がっている。また、市街地にあるのでスーパー・ドラッグストア等に出かけ、買い物を楽しんでいる。④定期的に「選択メニュー」と称してスーパーに出かけ、昼食に好みのパンや弁当を買い求め喫食している。時折、回転寿司やファミレス・そば屋・ラーメン屋等に出かけ外食を楽しんでいる。

市街地にあり、事業所は自治会・老人クラブ・地域行事・祭礼などの活動に参加し、地域との交流を深めており、利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りにも努めている。食事に関する一連の作業は、利用者と職員が共に行い、利用者の力を発揮する場となっている。また、買い物は、地元の商店を利用している。このことは「馴染みの関係づくり」だけでなく、地域の人たちにとって認知症の理解につながっている。利用者への個別の支援も積極的に取り組みがなされており、利用者は自宅にいるときと同様に、趣味や嗜好品が楽しめるよう支援されている。たばこは周囲へ配慮し喫煙場所を決め、職員が付き添うなどきめ細かい支援がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を介護ステーション等に掲げる等して、また、会議等で理念を掘り下げて話し合い、利用者に対し、人を愛する根幹である人間愛に満ちて最大の努力を惜しむことなく、最良の介護を行うように全職員が日々取り組んでいる。	独自の理念を掲示し、いつでも見ることが出来るようになっている。また、理念を分りやすく要約したものも作り、常に意識付けをしている。地域密着型サービスの意義をふまえた理念を、管理者・職員とも理解し、具体化することを意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の運動会・神社の祭典・文化祭等に参加している。また、日常的に近所の八百屋さん・スーパー等買い物や散歩に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたりお話しして交流している。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。地域にホームをより理解してもらうため「たより」を回覧して貰うなど努力を重ね、近隣との交流も軌道に乗ってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「地域包括支援センター城東」主催で地域GH、多機能施設が定期的に交流会を行い、実践内容説明や事例発表等して情報交換している。今年度は、地元高校の介護福祉科生徒及び医療福祉専門学校の学生を実習で受け入れることになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議には事業計画及び事業報告の他、委員から意見・質問・要望等を受け、その中から提案された事項等を話し合い、運営に反映している。自己評価・外部評価の他、家族アンケート調査結果についても報告し、評価で明らかになった課題についても意見を聴く等して、改善策に取り組んでいる。	運営推進会議は、年間4回ほど開催している。報告や情報提供にとどまらず、推進会議メンバーからの提案を受けて、地域行事に参加するなど意見が反映されている。サービス評価と運営推進会議を結びつける取り組みもなされている。	事業所は運営推進会議を活用して地域との交流を促進しているが、事業所としての活動・利用者の様子などの情報提供や報告の必要性を考慮すると、2か月に1回以上のペースで開催が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	甲府市介護サービス連絡協議会の会員で、会が開催する事業や研修会に参加し、担当者との対話の機会は多々ある。また、会のサービス向上委員及び広報宣伝部担当委員で運営にも関わっている。	事業所は積極的に市や包括支援センターと連携を図り、協力関係が築かれている。利用者の事例について相談することも多く、現場の実情や取り組みを伝える機会も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時から全職員が身体拘束をしないことを基本と認識し、介護に当たっている。身体拘束排除に関するマニュアルも整備しており、常時習得可能な体制になっている。利用者が帰宅願望や外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒にドライブしたり、近所を散歩したりして、気持ちを落ち着かせるよう配慮している。	夜間以外は施錠せず、スピーチロックについても全職員が認識を共有しており、身体拘束をしないケアを実践している。職員は利用者の行動・習慣を把握しており、その人に合った個別の言葉かけや対応をし、本人が混乱した状況にあっても、納得できるまで時間を惜しまず一緒に行動している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	参加した職員が研修してきたことを会議等の場で活用し、法に関する理解浸透や遵守に繋げて虐待防止に取り組んでいる。職員が何気なく発した言葉や態度が、虐待と受け止められることが懸念されるので、常にそのようなことのないように話し合い注意して業務に当たっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方が現在（以前もいた）おります。権利擁護に関する研修会に参加して、ある程度、当該制度に関して認識はしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に運営方針等を説明し、利用者及び家族等の要望を聞いて、可能な限り対応することを理解していただき同意を得ている。また、退居に当たっても、利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、対応方針を相談し方向づけをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が相談事や要望・意見・不満など直接管理者に、若しくは介護員、介護支援専門員に、或いは運営推進会議の場で言うように日ごろから心がけている。家族（親族や親しい友人等含む）には来訪時の他、電話や定期的に便りや暮らしぶりを写真を添えて報告している。出された要望等は会議等で検討し対応している。	日頃から、家族との関係づくりに努め、不満・要望を積極的に聞く努力や場面を作っている。ケアプランには、家族の要望を家族自身に書き込んで貰っている。利用者の日常の様子を家族に知ってもらうための「たより」の送付、ホーム行事への招待など、職員は意見の出しやすい雰囲気を作るための工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する全体会議や主任、介護支援専門員等との話し合いにおいて、運営全般に関して意見や提案を聞く機会を設け、サービス全般に亘り、質の向上に努めている。代表者(当ホームは花菱荘荘長が職務執行者)は毎月1回以上来訪し、職員(時には会議に出席)及び利用者に対話する等して、運営に反映している。	月ごとに全体会議を開催しており、代表者・管理者は職員の声に耳を傾け、それを活かす努力をしている。また、定期の開催にこだわらず、必要に応じて全体会議を持ち、迅速な対応につとめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は利用者の生活状況等を把握し、管理者や個別に職員と対話したりして意思疎通を図り、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。職員の資質向上のため、介護支援専門員等の資格を取得できるように、積極的に受験の機会を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外及び法人グループで開催される各種研修には、交替で正規・嘱託・パート職員を問わず受講できるようにしている。参加した職員は必要により会議で発表したり、報告書(資料等)を全職員が閲覧できるようにしている。新人職員に対しては、最初の1か月間程度、ケアの技術面だけではなく、利用者との関わり方について丁寧な指導を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会及び甲府市介護事業者連絡協議会主催の研修会・グループワークや事例発表・検討等を通じて、地域内外の多くの施設等と交流し、情報交換等で研修したことをサービスの質の向上に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定前に、情報や事前訪問若しくはホーム見学等により、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、利用が決まった場合は、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。(認知の度合いにより家族等に聞くことが多々ある。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定前に、事前訪問或いはホーム見学等により、家族に会って、利用希望者の心身の状態やこれまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、出来るだけ詳しく聞き、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い・状況等を確認し、空気がない場合、可能な限り柔軟な対応をして、空気が出るまで他のサービスを紹介している。本人と家族にとって「何が一番問題なのか」を見極め、その問題解決のためのサービスを提案し、理解をしてもらい対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。また、そうした場面が多くもてるようにセッティングや工夫し、協働しながら穏やかに、そして日々和やかに生活できるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密にして、利用者の様子や職員の思いを細かく伝えることで、家族と職員の思いが徐々に重なり、利用者を支えていくための協力関係を築けることが多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないように心がけ、知人や友人等が訪問したりして継続的な交流している。また、馴染みの美容院やお店に行ったり、命日やお彼岸に墓参りをする等、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	これまで暮らしていた地域の人が来訪することもある。また、馴染みの美容院やお店に行ったり、彼岸・命日の墓参りや本人の希望で、閉め切りになっている自宅の様子を見に帰るなど、馴染みの人や場所が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞き相談に乗り、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりなど、職員が調整役となり支援している。毎日のお茶や食事職員と一緒に食べ、円滑にいくよう配慮している。利用者は心身の状態や気分、感情で変化することもあり注意深く見守り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	方針として、退所した方を訪ねたり、家族に様子を聞いたりして、関係を断ち切らないようにしている。近時、退所者の中にそのような対象者がいないため途絶えている。以前そのような関係で、再入居し、生活している方がおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけ、把握に努めている。言葉や表情の中から、その真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。意思疎通困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	本人本位を第一に考え「どう暮らしたいか？ どう思っているか？」を日々の関わりの中から感じ取り、推し測っている。また、家族や関係者からの情報を得るなど、一人ひとりの思いや意向に関心を払い、把握しようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅や病院を訪問したり、または来訪して頂き若しくは入居時に本人や家族・関係者等から聞き取るようにしている。入居後も折に触れ、本人や家族にどんな生活をしてきたかを聴いたりして、介護サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像をくみ取り、一日の生活に取り入れている。生活・心理面の視点や、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員間で意見交換やカンファレンス等も行っている。利用者が自分らしく暮らせるよう、ホーム外の関係者(訪問調査時、ケアマネジャー等)の意見も含めて課題となることをスタッフ間で話し、介護計画の作成に活かしている。	本人・家族の意向を反映した介護計画が作られており、その人らしく暮らすための支援が盛り込まれている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、ケアマネジャーのアドバイスや職員の意見も反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルし、食事摂取量・排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録している。いつでも職員が確認できるようになっており、勤務開始前の確認を義務づけている。職員の気づきや利用者の状態変化は、個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。それに基づき介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、協力病院・医院以外の通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、地域の自治会長や民生委員の計らいにより、ボランティアの呼びかけの他、訪問も受けている。また、地域生活を継続していくには、地元警察署・消防署等の他、周辺施設への働きかけをして、連携を取るように取り組んでいる。特に警察署(甲府南警察署)とは連携を密にして、夜間の巡視を強化して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居相談時、事業所協力病院で診療可能な病気について、本人若しくは家族の承諾を得て、紹介状により移し、ホーム対応で通院支援している。事業所の協力医の他、利用前からかかりつけ医での医療を受けられるよう、また、新たな病気についても、家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	本人・家族の希望を重視し、希望通りの医療機関に通院している。通院支援も希望に添って行っており、現在、利用者の家族が受診同行しているのは一人のみで、他の利用者は全てホームが通院支援している。受診の結果などの情報は、関係者すべてと共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師の資格を持つ職員を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、協力病院とある程度相談できる関係にあり、状況に応じて相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、適宜面会に行き、回復状況等担、当看護師及びソーシャルワーカーから聞く等して、対応している。また、家族とも情報交換しながら、退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の機能が重度化しホームでの生活が困難となった場合、できるだけ早い段階から本人や家族・主治医と話し合い、現段階では介護老人保健施設や特別養護老人ホームへ移っている。待機者の多い中で、特養等への移行が困難な実情ではあるが、ターミナルケアに備えての検討や準備には至っていない。	ターミナルケアの対応について具体的な準備には至っていない。今日まで、ホームで重度化した場合無く、体調を壊して入院したり、他施設へ入所が決まり退居した例のみである。入居時の説明の際に話し合い、事業所側の考え方を家族・本人に理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本年度(7月)は消防署員講師による救命救急法の実技講習を行い、初期の対応方法は習得している。然し、定期的には実施していない。事故発生時のマニュアル及び夜間の緊急対応に関する方法については整備しており、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、それに基づき、年4回訓練を行っている。時には、近隣住民も参加のもとに避難誘導に協力してもらい、万一の災害時に際し、協力体制にある。また、訓練の度ごとに避難経路の確認、緊急連絡体制、地域広域避難場所の確認、消火器の使い方等についても防火管理者指導のもとに実地訓練をしている。	地域の消防団関係者が運営推進会議のメンバーで、そのことから地域の協力体制が整い訓練には近隣住民も参加してもらっている。年4回の訓練は、夜間・昼間の火災発生・地震災害など想定して、実践的な訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に当事業所の理念及び運営の基本方針を念頭において業務に精励している。つまり、利用者に対し人生の先輩として敬意を払い、馴れ合いの中でも本人の尊厳を無視した言葉かけや態度、ケア等に最大限気配りを怠らず対応している。採用時に「個人情報保護に関する誓約書」を提出してもらい、守秘義務について理解をさせていただくと共に在職中は勿論、退職後も知り得た情報を漏らすことのないよう管理を徹底している。	職員は常に理念を意識し、利用者に対し人生の先輩として接している。幼児言葉・命令口調・本人の尊厳を無視した言葉かけをしないよう細心の注意をしている。援助が必要な時もさりげないケアを心がけ、周りに気づかれないよう配慮している。職員は、利用者から話し掛けられたら、ゆっくり聞くことを大切にしており「利用者の笑顔が『職員の生きがい』」と感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったりカードなどを使い、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。(飲みたいもの、食べたいもの・メニュー、する、しない等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても、一人ひとりの体調や状態に配慮し、その日・その時の気持ちを尊重して柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の衣服、外出時の服装は基本的には本人の意向で決めて職員は見守りや支援が必要ときに手伝う。自分で決められない方には、一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援をしている。また、理容については本人の希望に合わせたカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望も取り入れ、調理・盛り付け・片付け等も一緒に行い、職員もテーブルを囲んで和やかな雰囲気の中で食べている。月1回程度の割合で「選択メニュー」と称し、スーパーに出かけ個々に好みの弁当等を買って昼食に取り入れている。また、年数回ファミレスや回転寿司等で外食している。	利用者は、積極的に希望メニューや嫌いな物を申し出ており、個々の希望に添いきめ細かな対応をしている。利用者・職員が助け合って調理し、一緒に食べて、後片付けもしている。時には外食をしたり、スーパーに行き各々が好みの弁当を買うなど食事を楽しむ工夫した取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー1600を基準にして献立をたてて実施している。糖尿の基準値の高い方や肥満等の方には、極力その人に合う栄養バランスを考慮しながら対応している。また、一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録や申し送りで職員が共有している。 ※職員に栄養士資格保持者がいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけをして、口の中を他人に触れられる利用者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助している。就寝前に義歯を外し洗浄液に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのサインを全職員が把握し、あからさまな誘導でなく、さり気なく支援している。失敗してしまった場合でも、極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気づかれない等の配慮しながら対応している。時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでトイレで排泄することを促している。	おむつを使用している人はおらず、全員がトイレで排泄している。職員は一人ひとりの排泄パターン・習慣・サインを熟知しており、さりげなくトイレ誘導している。失敗してしまった時でも、本人へのフォローや周囲への対応に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤(便通薬)等を必要とする利用者には、主治医の指示により個々の状態にあわせた使用量、頻度で対応している。便秘予防として繊維質の多い食材や乳製品(毎日のヤクルト等)を取り入れている。散歩、食事の手伝い、掃除等適度な運動で体を動かすことも日課とし、自然排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回程度、朝から1人で入浴できる体制になっており大変好評である。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援をしている。	入浴は毎日可能(朝から午後4時半までいつでも入浴できる)。入浴順をアマダクジで決めたりして、楽しみの機会を増やしている。一人きりでゆっくり入浴することもあったり、個々の希望に添った支援をしている。入浴拒否の利用者には、職員が工夫して誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。個々の体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるよう支援している。夕食後からは穏やかで安心した時間の過ごし方にチームで取り組み、就寝に向けて工夫している。寝付けない方には温かい飲み物を飲み、おしゃべり等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の他、処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握している。内服は本人に手渡し、ケースによっては口に入れて服用まで確認している。処方内容・容量等が変わり、状態変化がみられるときは詳細な記録を取り、かかりつけ医と連携し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力を発揮してもらえるよう、出来そうな仕事をお願いし、その都度、感謝の言葉を伝えている。外出や地域の行事参加、催し物の見学にも出かけている。季節的には、花や野菜の植付け・手入れ収穫までまた、衣服の補修、毛糸編み等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のお天気具合を勘案し、本人の希望にある程度応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう、散歩・ドライブ・買い物或いは公園等に出かけている。また、年間を通して、初詣・花見・いちご狩り・紅葉見学等に出かけ、ストレス発散等に活かしている。	利用者の希望で買い物に出るなど、日常的に外出の支援がなされている。散歩や外気浴だけでなく利用者の様子を見て、気分転換が必要と感じるとドライブに出ることもある。また、季節・年中行事などの外出もあり、利用者にとって楽しみごと・気晴らしとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の八百屋さんへの買い物は日常的にしており、購入した野菜類の代金はその場で利用者の手から支払い、買い物をしたという満足感を味わっている。また、利用者の中にはお金を所持している方もおり、スーパー等で買い物し、手持ちのお金で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・親族・友人等へ電話や手紙(年賀状等)は自由に出来るようになっており、利用者の要望に応じて対応している。電話の場合、他の利用者に会話がある程度、聞こえない場所に設置してある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホーム内全てがバリアフリーになっており、ホールや廊下等ゆとりのある広さで、浴室・トイレ等表示があり、分かりやすい配置になっている。ホールや廊下等の飾りつけ(写真等)は、季節に合うように利用者と一緒に考えて、自分が住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。	共用の空間は過剰な飾り付けを避け、より家庭的であるように配慮されている。廊下の突き当たりにある二人用のソファが、利用者同士や利用者と職員とが打ち解けた話しを出来る場所になっている。ホーム内はバリアフリーとなっており、温度・光・色なども考慮され、安全で居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール及び居間等に椅子とテーブル、また、共用空間にソファを置き、写真や絵画・花等で装飾し、利用者同士や家族等とも気軽に話ができる居心地の良い空間をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベット・タンスの他、利用者一人ひとりが使い慣れた椅子やテーブル・収納セット・テレビの持ち込み等自由にしてあり、落ち着いて生活ができるようにしている。	居室には、タンスなどの収納用具や使い慣れたイスなどが持ち込まれており、思い思いの居場所作りがされている。利用者は居室でくつろいだり、ホールでおしゃべりを楽しんだり、それぞれがゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンクや調理台、洗面所等利用者の使い易い高さで設置しており、生活環境のあらゆるところに、自立した生活ができるように配慮している。		